2014年　8月31日発行　第18号

西小倉めぐみ教会通信

発行者
日本キリスト教団
西小倉めぐみ教会
〒611-0042
京都府宇治市小倉町西浦33-36
TEL&FAX 0774-20-3071
http://www.n-megumi.com/

「宗教法人 日本キリスト教団 西小倉めぐみ教会となって」

倉橋 剛

聖名を崇めます。私たちの小さな教会が小さな一歩ずつでも神さまのご用のために働かせていただけるのは、本当に多くの方々のお祈りとお支えがあることを深く感じ心より感謝しております。

当教会は神さまのお導きの中で1981年4月5日に「小倉伝道所」として多芸正之牧師により開拓伝道が始まりました。牧師夫妻の物心共に捧げられた伝道への思い、また創設時からの田中 晁さんご一家のご奉仕と忘れてはならないことが多くあります。そしてその蒔かれた種を将来にわたり安定した宣教活動の拠点とするためにも宗教法人とすべく2010年の教会総会にて法人化の手続きが承認されました。そして2014年8月5日にようやく認証され14日に宗教法人として登記することができました。

この手続きを通し、小倉伝道所設立当初から、最も大切にされてきた信仰共同体としての目標を改めて確認することが出来ました。当時の総会資料の中に次のような一文が書かれていました。「地域に学び、地域と共に生きる教会を目指して、差別の問題、平和の問題等、それぞれの課題を追求しつつ、福音に生かされることが、社会の中に生きることを通して証しできるよう努めて励みたいと思います。」そしてその言葉通り、教会の歴史を振り返ると課題の一つである差別問題(在日・被差別部落・しょうがい者・セクシャルマイノリティーそれぞれの方々のこと)でした。社会的に弱い立場に立たされている方々との出会いがあり、「共に歩もう」という思いが伝わる活動記録が多く残されていました。(今は、加えてひきこもりがちな青年たちとの出会いも与えられています。)また、もう一つの柱「平和の問題」でも学習会が多く行われ時の政権に声を上げていた記録もありました。今、特に政治がどんどん右傾化し、「集団的自衛権」に留まらず根本的なところで平和憲法9条も変えて戦争の出来る国へと舵を切っているようにしか思えてならず大きな不安を抱いています。33年の時を経ても「弱い立場の方々と共に歩む教会」「平和の希求」はまさに、今現在も変わらない大きな課題、目標に違いはありません。

しかし、私たちの教会は本当に小さな教会です。こうして書き上げてみても神さまから大きな使命を与えられながら本当に小さな働きしか出来ていないのが現状です。けれど、神さまは、そんなありのままの弱い小さな教会を人間の思いを超えて活かしていてくださっています。たった一人であっても、教会が何とか悩める人、苦しんでいる人の心の居場所となれるようこれからも祈り求めていきたいと思います。そして、この社会の見張り役としての使命をも常に自覚しつつ、必要な声を上げていける、そんな教会でありたいと願っています。「大事なことからはブレない」を実行するためには、「信仰に立って」という動かぬ土台が必要です。

宗教法人として新たに出発することで、さらに私たちの小さな群れが用いられ神さまを証しする働きができますように心より祈りつつ、一歩ずつ進んでいきたいと思います。

在主

宗教法人設立によせて

西小倉めぐみ教会の宗教法人認可を心より嬉しく思います。1981年4月より開拓伝道が開始され、33年を経て宗教法人の認可を得られたことは、国・行政からも教会として受け入れられたことと思いますので本当に喜ばしく思います。今後、さらなる発展を祈り願っています。（多芸正之）

私がこの教会に導かれて13年ですが、小さな群れですので無力な私にも神さまはご用をお命じになっています。宗教法人が認可され、ひとつの節目を迎えました。さまざまな理由で教会に来られない方々のことを覚えつつ、これからも信仰生活を神さまにゆだねて歩んでいきたく思います。（岩城澄子）

「法人」という言葉にあまり慣れていないのでよくわかりませんが、今までの「私人」としての教会よりもいろいろと責任がかかってくるのだろうと思います。「法人」の名に恥じないように努力していかないとなと、何か背筋がシャンという感じです。(小曽根一枝)

皆さんに支えていただいてここまで歩いて来れました。感謝です。私は今の教会が好きです。宗教法人となっても今までの通り、人数は少ないけれど一人のためにみんなで祈れるような教会であったらと願っています。(杉本節子)

宗教法人設立を機に、この通信の表紙のデザインも見直しました。週報の表紙と同様に、十字架からさす光をモチーフにしました。我々には気づかない間に神からの聖霊が注がれ、満ちあふれている（私たちは文句を言ったり罪を犯したりしているのに)。今回の通信は、それらの意味を含みながら、神の御言葉が、教会の業が、四方へと羽ばたき広まるように、少し離してみるとチョウチョの型に見えます。そういう意味を含みながら制作しました。

開拓伝道より今まで、教会に相応しい週報と通信の表紙を制作でき幸せです。そして伝道３０年、教会法人化という記念すべき時に間に合ったことが幸せであり、私の西小倉めぐみ教会での歩みの総決算のように思います。（田中　晁）

３０年以上の時を超えて、西小倉めぐみ教会は、新しい気持ちで歩み出す時が与えられました。多くの方々の祈りと協力、努力、そして神様の計画の中にあってなされた業だと思います。ゆっくり、じっくり、しっかり歩み続けてきた我が西小倉めぐみ教会に「がんばったネ！」と声かけしてあげたい思いです。これからの歩みも神様の守りの中にあって、前に進んでゆきたいと思います。（田中千栄）

教会設立から33年と4か月ということは、だいたい１世紀の3分の1ですね。私はそのうちの26年をこの教会と共に歩むことができました。感謝です。長いスパンで考えると、そこに神様の大いなるご計画を感じます。この間世の中が悪くなっている面を感じてなりませんが、あきらめずにこの場で祈り求めたく思います。（橋本　博）

やっと宗教法人の認可がおり、西小倉めぐみ教会の第二の歩みが始まりました。「弱い立場の人々と共に歩む」「平和の希求」という宣教課題は脈々と受け継がれ、これからも私達の教会の柱であり、証の糧となるものでありたいと願っています。そして多くの諸教会、多くの方々の支えの中で歩み続けてこられたことを、深く感謝します。

（門戸幸子）

「宗教法人になり再出発する教会への思い」
この時に忘れてはいけない大切にしたい精神が
書かれた文章を見つけましたので寄稿します。

『プールを歩いて渡った女子高生』　広島市の女子高校生、A子さんは、足が不自由な女の子でした。小児マヒが原因でした。毎年恒例の水泳大会のこと。女子の選手が中々決まらない中、クラスのボスの男子が、「A子はこの3年間、体育祭、水泳大会に一度も出ていない。最後の3年目なんだから、参加しろ」と意地悪なことを言い出しました。自分が不利になることを恐れたクラスメイトは味方してくれずみんな口をつぐんでしまい、結局、泳げないA子さんが選手にさせられてしましました。

彼女は家に帰りお母さんに泣きながら相談すると、いつもは優しいお母さんが「お前はこれから先もずっと何か出来ないことを言われたら、また泣いて私に相談するの?」と娘を突き放したのです。

A子さんはしばらく部屋で泣いていましたが、やがて25㍍を歩いて渡ろうと決心し、そのことをお母さんに伝えに行きました。すると、そこには「A子を強い子にしてください」と、必死で祈る母の姿がありました。

水泳大会の日、水中を歩くA子さんを見て、周囲から笑いや冷やかしの声があがりました。彼女がやっとプールの中ほどまで進んだとき、一人の男性が背広を着たままでプールに飛び込み、A子さんの隣のコースを歩き始めたのです。校長先生でした。そして、「何分かかってもいい、先生が一緒に歩いてあげるからゴールまで歩きなさい。恥ずかしい事じゃない、自分の足で歩きなさい」と、励ましてくれたのです。

それを機に笑い声は消え、みんなが真剣に彼女を応援し始めました。彼女が25㍍を歩き終わった時は、友達も先生も、そしてあのボスたちもみんな泣いていました。

A子さんの幸せや勝利は、過剰にやさしくされたり同情されたりする中から生まれるものではなく、どんな環境にも負けず、勇気を持って立ち向かっていく、自分自身の「強さ」が引き寄せるものかもしれません。そしてそれを支えるのは、母の祈りであり共に歩む人々でもあるのでしょう。そしてこれはすべての人に当てはまる、絶対的幸福の条件なのかもしれません。(新聞掲載記事より編集)　　(団野利男・団野明日香・団野華保)

<田中蒼（あおい）くん　幼児祝福式> 2014年 5月 4日

3月13日、当教会員の田中仰さんと涼子さん夫妻に、神様から新しい生命・蒼（あおい）くんが与えられました。5月4日の礼拝では、倉橋牧師から「こどもを祝福する」（マタイ19：13～15）のメッセージと共に、蒼くんの幼児祝福式を行いました。蒼くんの順調な成長とご一家の上に神様の祝福が豊かにありますよう心から祈りました。

「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援のお願い

主の御名を賛美いたします。

西小倉めぐみ教会は、1981年の創立以来、社会の中で小さくされた人たち、貧しくされた人たち、しょうがいをもつ人たち、とりわけ精神しょうがい者の人たちの課題を共に負って生きること、平和を希求して歩むことを宣教の課題として歩んできました。2005年から倉橋剛牧師を迎えた後も、その基本姿勢に変わりはありません。

不登校・ひきこもりがちな青少年の居場所「おやすみ」や、年齢制限のない居場所「のんびり」、地域の方々と歌を通じて交流する「歌ごえ」など、ささやかながらそのような基本姿勢のもとに取り組んでいるものです。

同教会では、教会に集う人たち自身が精神しょうがい者であったり、その家族に精神しょうがい者がいる人たちが多くを占めています。弱い立場にある人たちが多く集う教会ゆえに、教会員による精一杯の献金にもおのずと限界があるところです。

そのため、倉橋牧師の謝儀に対し、京都教区宣教連帯の制度から援助を頂き、さらに全国の皆様から「西小倉めぐみ教会を支える会」に献金をいただき、なんとか牧師家族の生活を支えてきました。同時に、教会の支出の見直しを重ねるとともに、牧師家族には様々な面で生活を切り詰めていただく等の努力をしていただいております。

このほど2010年度以来進めてきた宗教法人設立のための準備が整い、2014年８月には「宗教法人日本基督教団西小倉めぐみ教会」として再スタートすることができました。これからも厳しい状況にあっても、小さく弱い群だからこそこの教会が神様から与えられた使命を果たし続け、その社会的はたらきをより広く知っていただくための発信を続けたく思います。

そのようなこの教会のはたらきと、厳しい経済的事情にどうかご理解をいただき、「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援をいただきたくお願い申し上げます。　2014年　８月

西小倉めぐみ教会を支える会　代表 山下茂雄（醍醐教会牧師）

今までに御献金いただいた方のお名前（敬称略・順不同）2013.12.23～2014.7.27現在

鴨東教会　宇治教会　君村千代子　佐藤嘉子　難波 巧　竹内富久恵　高岩順子　福井達雨　武 公子
清水与志雄　光明園家族教会　彦根教会　関 真人　一木千鶴子　市川三本松教会　神戸栄光教会
倉敷水島教会　大阪東十三教会　三吉 明　田園江田教会　八幡ぶどうの木教会　大野教会　首里教会
経堂北教会　千歳教会　中標津伝道所　京北教会　倉敷教会　松代教会　鈴蘭台教会　交野教会
川上幹太　柳井一朗　西千葉教会　原宿教会　厚木上教会　宝塚教会　京都御幸町教会　能勢口教会
同志社教会　ひばりが丘教会　三友由美子　土佐教会　大泉教会　膳所教会　王子教会　高の原教会
伏見教会　伏見教会みどり会　田園調布教会　堺清水橋教会　京都丸太町教会　むさし小山教会
丹波新生教会　頌栄教会　紫野教会　洛陽教会　清水ヶ丘教会　水口教会　聖ヶ丘教会　京都教会
静岡草深教会　安達太郎･美千子　千葉教会　田中 晃･千栄　小曽根一枝　西本 愛　杉本節子
団野利男・明日香・華保　橋本 博　門戸幸子　岩城澄子　倉橋 剛・容子

（１３０件　計　６０９，３００円）

支える会の会計が大変逼迫しています。引き続きご支援をよろしくお願いいたします

振り込み口座番号(ゆうちょ)…00970-2-79224　（加入者名　西小倉めぐみ教会を支える会）

●教会のホームページをご覧ください！！

西小倉めぐみ教会のホームページが出来ています。まだまだ内容はこれからですが、これから充実させていく予定です。教会通信の1号から17号までも掲載しています。是非一度ご覧ください。アドレスはwww.n-megumi.comです。

また、不登校やひきこもりがちな子ども達、若者達のフリースペース『おやすみ』のホームページもあります。アドレスはoyasumi.infoです。こちらの方も併せてよろしくお願いします。